



災害時BCP安否確認システム

(災害時事業継続計画)

I はじめに

大規模災害などの発生時に、企業が事業を続けられるように定められたBCPは大手製造業を中心に確立されつつあります。しかし、生産ラインを止めないためにBCPを検討している製造業等にとって、傘下の中小企業の担っている部品等の供給が、確実になされるかどうか、重要な問題となります。この時、特に中小企業が従来通りの企業活動を進めるために、従業員の安否に関する情報は、大変重要であり、特に綿密な情報管理対策が必要です。

今回提案するクラウドサービスによる安否確認システムを導入することにより第1段階の社員確認が実現できます。

また、従業員家族への確認も可能となります。

II

BCPにおける提案テーマ「クラウドサービスによる中小企業従業員の安否確認」

- 災害時における中小企業の従業員安否確認システムの具体化を提案します。

安否確認システムは、**主として中小企業の従業員への対応**に視点を置き実行します。また、このシステムは従業員家族への対応も可能としました。

安否確認システムは多くのソフト開発会社より提案されているが、企業として従業員の情報を安心して託すことのできる団体・企業として、産学連携での情報管理体制のバックアップシステムを提案します。

クラウドサービスによる中小企業従業員の災害時安否確認アクションプランの提案

Ⅲ

何故、安否確認システムが定着しないのか

大企業ではすでに進められているこのシステムも、中小企業ではなかなか採用までは到っていないのが現状です。

問題点

- 震災時における安否確認の難しさへの認識不足
- 中小企業に負担となるシステム導入における高コスト
- 個人情報の管理方法
- 安否確認だけではない新たな提案がない

今回のシステム提案におけるメリット

- クラウドサービスによる低コストのシステム導入
- 国内2ヶ所、海外1ヶ所での管理による震災時リスクの分散化
- Pマーク取得企業による安心のデータ管理
- 従業員家族への対応も可能

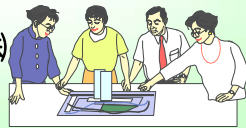
クラウドサービス

①携帯を利用した安否確認システムの基本コンセプト

安心して、依頼できるシステムづくりのために

●産学共同開発・運用 (キメ細かな対応が実現できる)

- ・横浜国立大学発ベンチャー プロジェクトラボ
- ・(株)ロジック
- ・静岡プロジェクト(株)



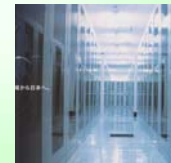
●強力なプロテクションシステム

- ・横浜国立大学発ベンチャー プロジェクトラボの「具体化」ツールによるリスク対策



●安心のデータ管理

- (既存システムは、海外などでの管理を行っている)
- ・国内2、海外2ヶ所でのシステム管理
 - ・Pマーク取得企業での従業員データ管理



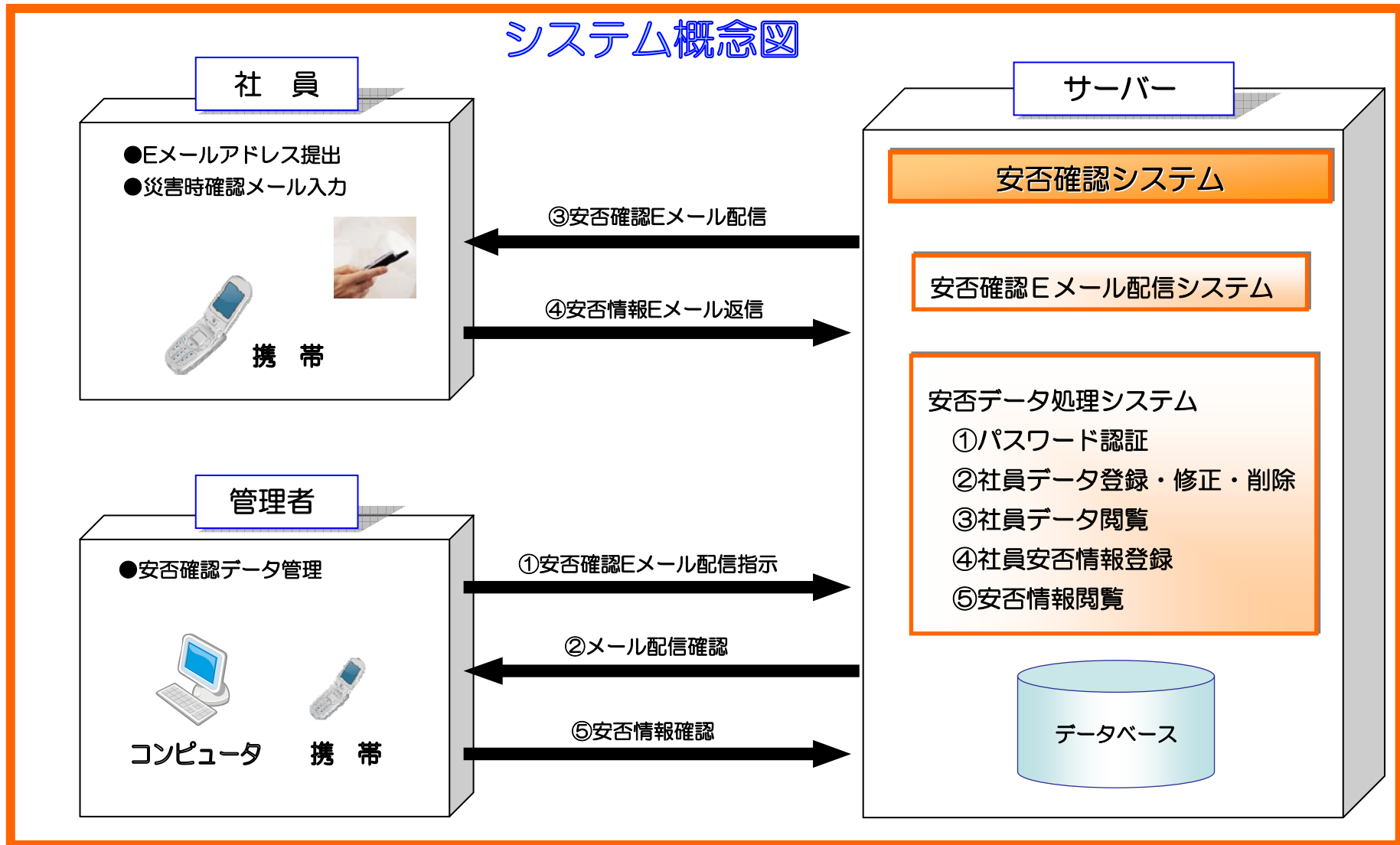
②災害時の迅速な安否確認を、携帯電話メールで行う

今回の安否確認システムでは、管理者が特定のアドレス宛にメールを送信すると、従業員への安否確認メールが一斉発信される。従業員のメールは、パソコンだけでなく携帯電話からでも発信できます。

システム導入の背景	「従業員の安否確認に1週間費やした」という、震災での体験 災害時の迅速な対応は会社の使命。大震災で、安否確認に膨大な時間と労力を割いたという経過がある
システム導入の理由	安定性・省力化・信頼性・低コストが選択の決め手 複数の安否確認システムを比較・検討。通信の安定性、情報管理機能、災害時にも確実に稼動する信頼性、初期コストなど
システム導入の効果	安否確認メール発信後、短時間で高い返信率を実現できる 簡単な安否確認メールへの返信率は高いと思われる。

災害は、夜間や休日でも発生する、その時災害対策の管理者が会社にいるとは限りません。従業員からの返信状況を一元管理し、管理者はパソコンでも携帯電話でも各人の安否を確認できるシステムです。

③Eメール安否確認概略図



中小企業向けに、災害時のBCPとして、迅速な従業員安否確認が要求される。そのためのシステムです。

④Eメール安否確認システム選択の理由

■安定性・省力化・信頼性・低コスト

災害時には従業員の携帯電話宛に安否確認のEメールが一斉送信され、その返信メールによって安否を把握する、という安否確認サービスの導入が最適です。その選択の理由は、次の4点です。

一、通信の安定性と、操作の簡便性

音声通話やWebサイト（インターネット）を利用した安否確認システムは、災害時に発信規制が発生し、通じにくくなる可能性が大了。またWebサイトへのアクセスも、災害時にパソコンが近くにあるとは限りません、停電すると利用できないといった問題も起こります。安否確認システムは、災害時でも輻輳の影響を受けにくい、携帯電話のEメール機能を利用して、従業員は、自分の携帯電話に送られてきた安否確認メールに返信するだけで、会社に安否を連絡できます。安定した通信手段を利用しており、どこでも使えて簡便性も有利です。

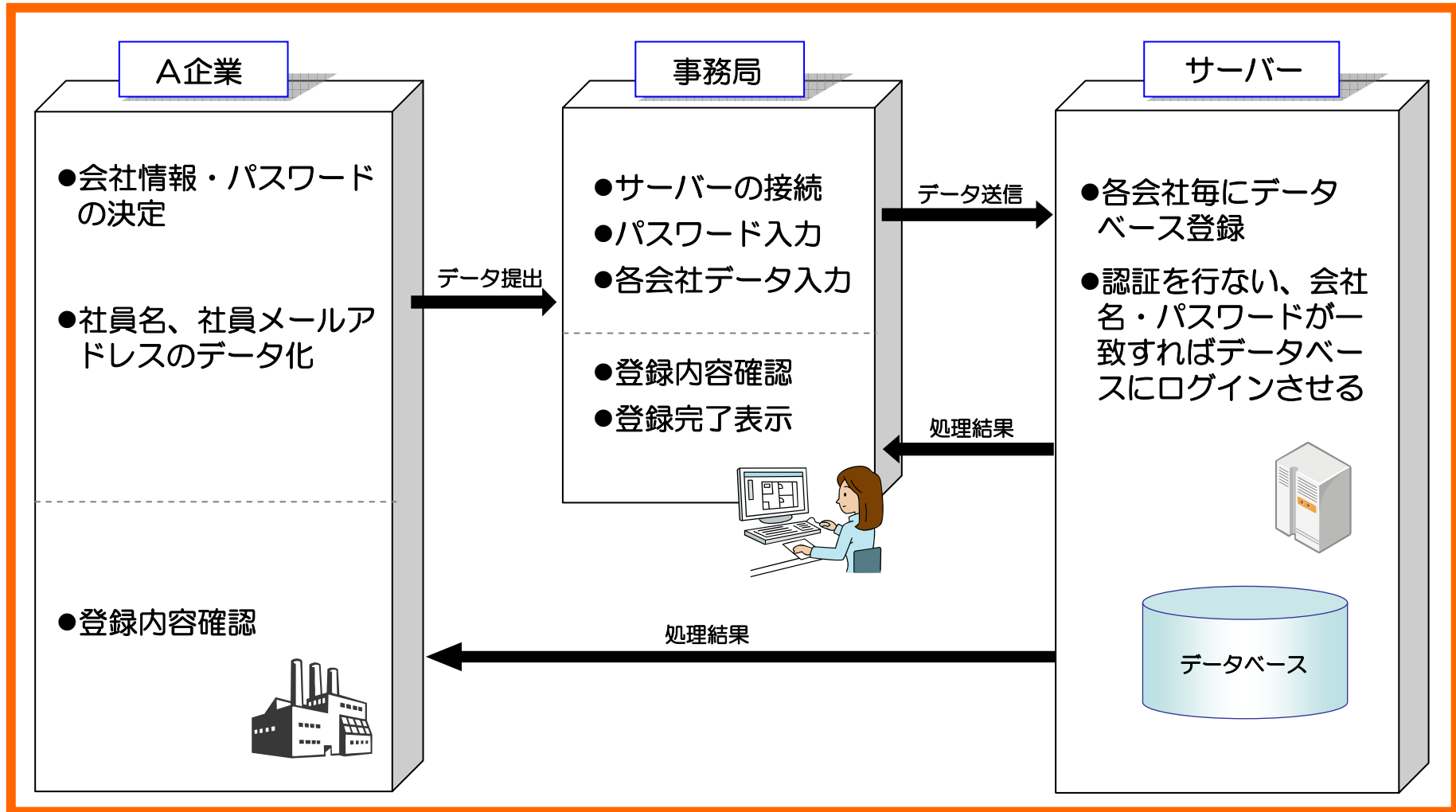
二、情報管理作業の省力化

音声通話を利用した安否確認システムの場合、管理者が従業員からの通話や伝言を聞き、情報を整理してデータ化する、といった作業が必要になります。

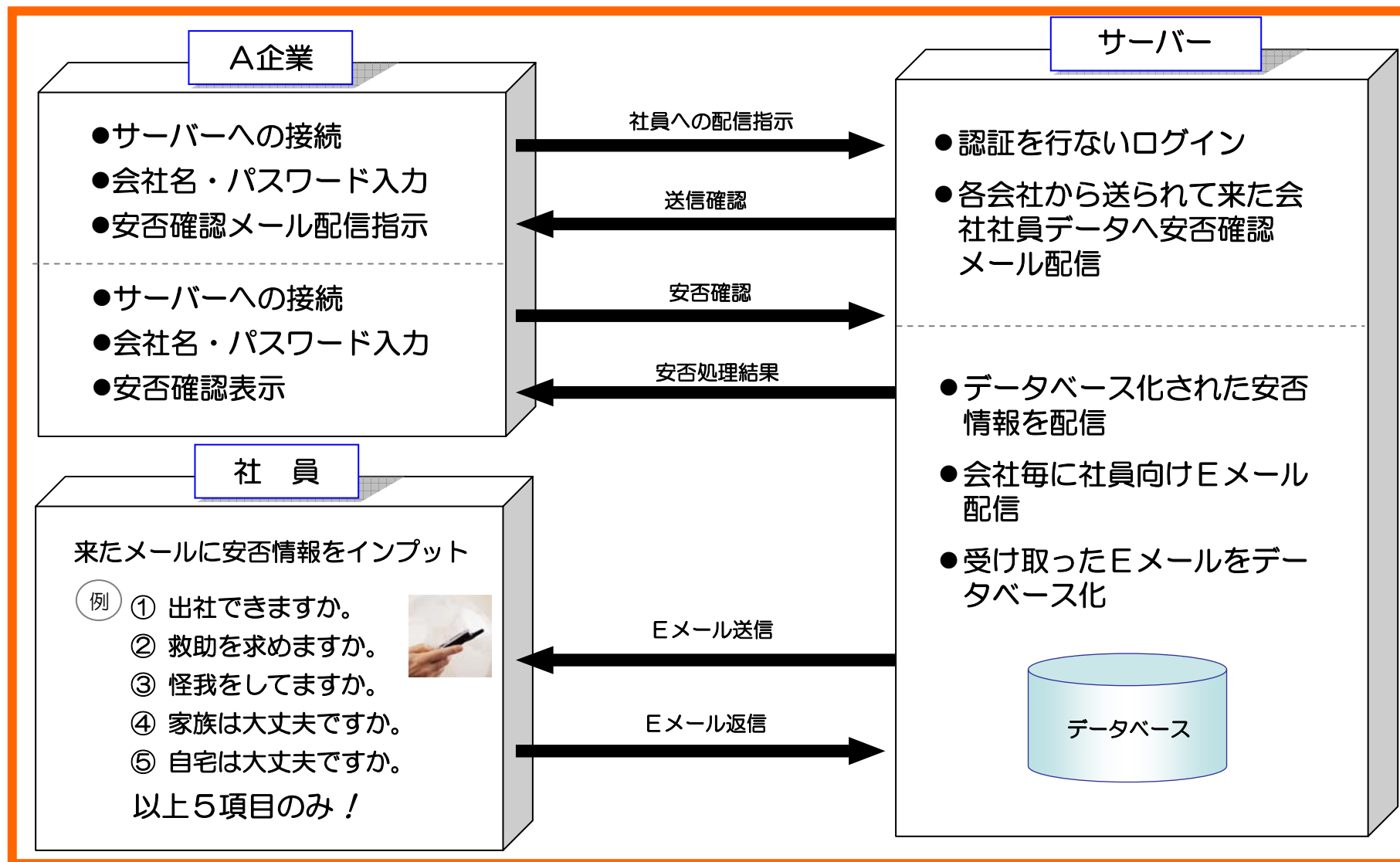
安否確認システムでは、従業員からの安否確認メールの返信状況を、自動的に一覧表にして提供します。時間も手間もかからずに、常に最新の情報を一元管理できることは、迅速な情報共有が可能となります。

⑤携帯電話メールによる安否確認システムブロック図

(1)名簿登録時システムブロック図



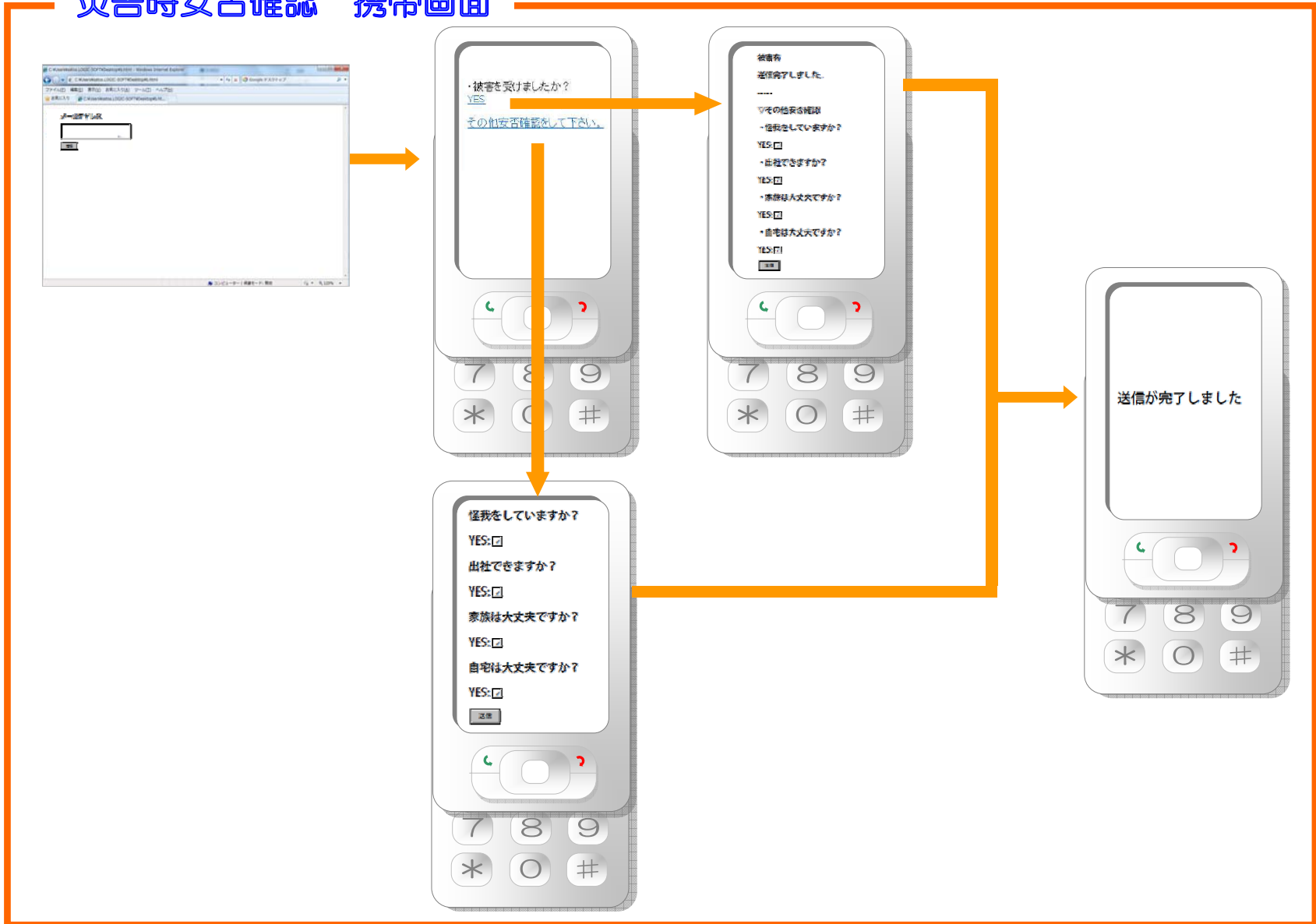
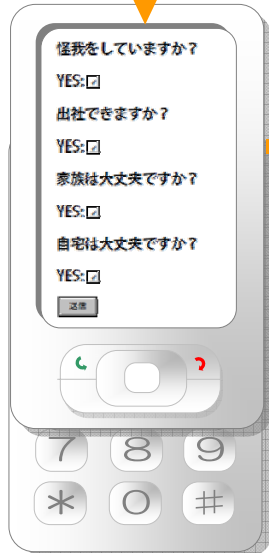
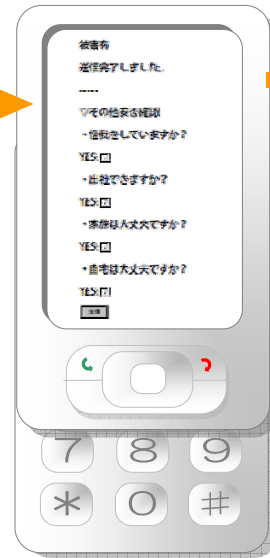
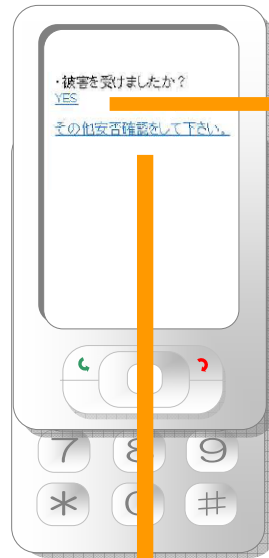
(2)災害時システムブロック図



中小企業向けに、災害時のBCPとして、迅速な従業員安否確認が要求されます。そのためのシステムです。

⑥受信イメージ

災害時安否確認 携帯画面



災害時安否確認 PC、携帯画面

